

オスプレイの横田配備は不安

昭島市美堀町の住民アンケートから

米軍はオスプレイの配備を2013年先送りしました。

4月20日に住民の方々からのアンケートを実施しました。実際に配備が実施された場合、滑走路延長線にある地区のため、400軒に配布し、161軒といふ多数の回答を頂きました。(回収率約33%)

要約すると ①基地への

賛否をめぐり、非常に多くの方から様々な意見が出された。

それだけロンドンから聞いたことがあつた。とついでに「おなじみだ」。

②沖縄での事故は97%の人が知っており、オスプレイの危険性は国民の「共通認識」になっている。横田基地への飛来や配備に不安を抱く人が多かった(87%)。

③基地やオスプレイには、不安・アメリカが守ってくれている・沖縄の負担軽減のためやむを得ない、など様々な意見が出された。

④沖縄の事故原因が究明されないまま、安易に訓練再開を認めた日本政府への不信が顕著に現れた。「理解できる」と回答した人の過半数が住民に対する「説明が必要」と回答している。

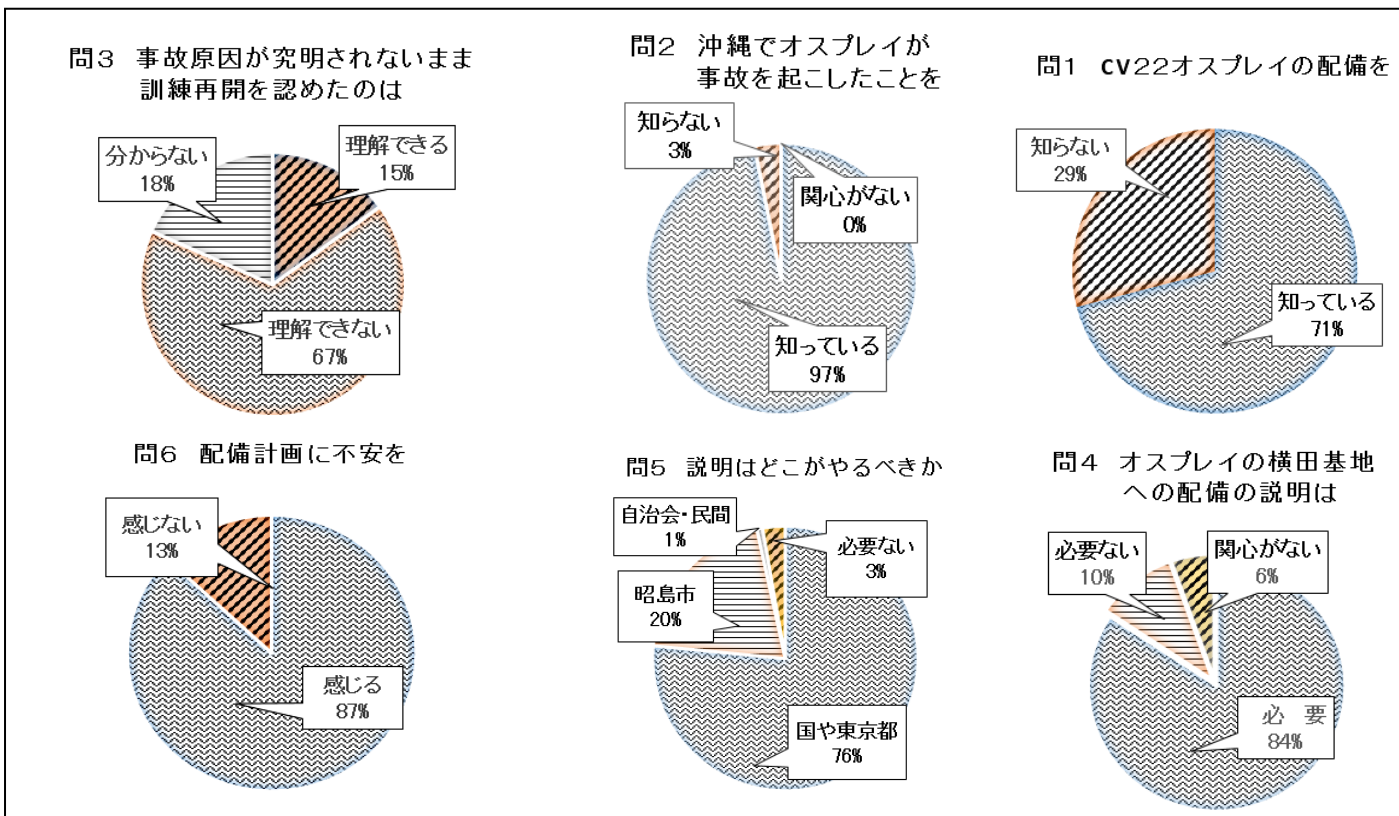
⑤オスプレイの配備は、米軍の一方的な計画で、住民への説明が必要という回答が84%に及ぶ。「説明会」が形式的な既成事実づくりに利用され、十分な説明が期待出来ない、という意見の声も出されている。

⑥オスプレイ配備による騒音の増大を懸念する記入が17件あり、とりわけ低周波騒音を心配する深刻な声が出られている。

横田基地問題を考える会

ニュース No. 34

連絡先
電話&FAX 0428-22-6273
ホームページ アドレス
Yokota-peace.sunnyday.jp



私の想い



松井 登志子さん

戦闘機の爆音で 2度も流産

85歳の現在も、学校の健康診断の手伝いに行っています。

昭和29年に結婚してから、昭島市美堀町に住み着きました。私は看護師と擁護教諭の資格で小学校の保健室勤務を36年間、退職後5年間の嘱託勤務を続けてきました。

ここは横田基地への飛行機の進入路から約300メートルしか離れていません。ベトナム戦争当時はシヨッ

ト戦闘機の凄まじい爆音で夜も眠れない日が続きました。そのため、私は2回も流産しました。また、夫は自宅で仕事(洋服屋)をしていたので、24時間爆音被害にあい耳が悪くなり、現在では補聴器を使っても会話が来ず、筆談を余儀なくされています。

ここは昭和飛行機の土地でしたが、東京都が都営住宅を建て、都民が住んでいました。道路は道幅も狭く、舗装ではないため、自動車を通ると埃がまいあがるという具合でした。住宅と言っても簡単な作りのため、床から竹の子が出てくるという良寛さんの世界でした。ですから直ぐに具合が悪くなり、修理を繰り返す...というところで、払い下げが行われました。当時、美堀町の商店街は、昭島で最も賑やかな商店街の一つでした。余りの爆音で、夜も眠れない状態で、集団移転ということになり

ました。今ではかつての商店街には1軒の店もなくなりました。

現在も残っているのは小学校1校だけです。この学校は防音工事がしてあるのに、飛行機が通ると授業を中断しなければならぬ状態です。



スイカズラ

写真は 岡田光弘さん
(立川市一番町)より

市民による説明と話合いの集会

横田基地にオスプレイ配備

あなたはどうか受け止めますか!!

5月27日(土)午後2時開会

福生市市民会館 小ホール

入場 無料

主催:横田・市民交流集会実行委員会



横田基地問題を考える会

第8回定期総

6月11日(日)午後1時30分から

立川柴中会公会堂 1階 会議室

多くの会員の皆さんの参加をお願いします。



5.3 憲法集会

沖縄は今、ウリズンと言う季節

先月に帰京して以来の沖縄は一ヶ月の間にウリズンと云われる時期に入っていた。ウリズンは雨の日が多く、森を潤し、一雨ごとに木々の新芽が育て、森、林に勢いをもたらす時期である。

一方、権力という名の怪物が森や海を侵し続けていた。ヤンバルに森は多くの樹木が切り倒され続けられていた。海には10トン以上もあるコンクリートの塊が投げ下ろされ、海底を潰し続けていた。権力という怪物は飽くことを知らない。

二月の彼我（権力&島ぐるみ運動）の動きはお互いの力量を測るための期間であつたらしい。この期間の勝負は機動隊側に有利に動いた。機動隊は島ぐるみ運動の緩み、動員力の低下を正確に判断し、沖縄県警のみで制圧に掛かっている。島ぐるみ体制は北部訓練所の部分的返還及びヘリパッドの引き渡しのショックに立ち直ることが遅く動員力の極端な弱体化から立ち直ることが出来ず、今年に入つてのシユワブの攻防に対応できず、工事の準備

は進むばかりであつた。こちらの体制を何とかしないと大変なことになる。

黒装束の軍警（日本人警備員）までが抗議の市民たちを黄色の線の中に引きずり込み拘束する始末である。軽微な違反行為で拘束し、信じられない長期の勾留をすることも多発し始めた。軍警が腰に大型拳銃を纏い市民の抗議を恫喝する。果ては迷彩服の海兵隊員が黄色線とゲートの門扉の間で抗議行動に睨みをきかせる。もちろん腰には大型拳銃を装備している。発砲まではしないだろうとは思つても気持ちの良い物ではない。その横で沖縄県警が抗議中の市民にDVDを向ける。抗議中の市民が違反行為（例えばそれが自分の意志ではないこと）で起きたとしても、軽微なことであっても）裁判の資料を前もって準備する。明らかに市民を犯罪者予備軍としての扱い



拳銃を腰にさした日本人警備員

（日本人警備員）



キャンパスユワブの工事用ゲートの前で砂利登載のダンプやコンクリートミキ一車が基地内へ通行するのを阻止しようとする市民を牛蒡抜きで排除する機動

である。共謀罪法案（平成版治安維持法）が通るかもしれないと思うとゾツとする。だとしても抗議行動をやめるわけには行かない。

夜中というのに宜野湾の空には低周波で内蔵を揺さぶるような大きな爆音が響く。先週は毎夜の音を聞かされた。オス

プレイヤ攻撃型ヘリコプターコブラ（AHI-1）の夜間訓練である。沖縄防衛局に抗議しても第三者行為論をかざしてどこ吹く風である。この海兵隊の理不尽な行為はすぐにでもやめさせないと危険だ。墜落事件のまえに生理的、精神的異常をきたす市民が増え続ける。

（文責 富久亮輔）



無人偵察機「グローバルホーク」

グローバルホークが横田基地に一時展開

グアムを拠点に運用されているグローバルホークは、2016年から三沢飛行場へ一時展開を開始してました。

2017年5月から7月まで、滑走路改修工事のため、暫定処置として横田基地に一時展開します。期間は5月1日～10月31日まで。

展開機数5機、操縦する地上装置1基、パイロット及び整備士約100名。

運用頻度：離着陸時は横田基地の地上装置から遠隔で操縦し、十分な高度になった後は米本土から操縦する。

グローバルホークの概要

情報収集、警戒監視、偵察を任務とする高高度滞空型無人偵察機攻撃能力はない。

高度は約1万5千m以上で航行(最高高度、約2万m)

無線通信及び衛星通信により地上から操縦

全長：約15m、全幅：約40m

全高：約5m

滞空時間：約30時間

CV-22オスプレイの配備延期

3月13日、米国防総省はオスプレイの3機の配備を、2020会計年度(2019年10月～2020年9月)に到着する予定と発表した。

延期の理由として、①必要な機体数の確保に当初の想定よりも時間を要することが判明。②オスプレイのパイロット及び整備士の訓練に当初の想定よりも時間を要することが判明。③米空軍の他の運用との兼ね合い。



オスプレイの事故率が増加

1.93→3.44

事故率について、防衛省は「一般に飛行時間の増加に伴い低減する」と強調して安全性を強調してきた。ところが米海兵隊は、クラスAの重大事故率が2011年～2016年では3.44になったと説明した。

この結果は、日本政府がオスプレイを導入する根拠が揺らいできたこと

を意味します。まして沖繩で墜落したオスプレイから流失したチエックリストには給油で

「破滅的な帰結を引き起こす恐れがある」と記述し、米軍自身がオスプレイの空中給油の危険性を認識していることが明らかです。

クラスAの重大事故とは、死者や200万ドル(約2億2千万円)以上の損害が出た事故。

C-5大型輸送機が離陸後油圧系の故障のため、横田基地に引き返す

3月29日、大型輸送機C-5Mが離陸したが、30分後戻ってきて、滑走路で停止した。消防車・パトカー6台や消防士が集まった。乗客を降ろし、機体を駐機場に牽引した。

消防中隊と憲兵中隊が同機を調べたが、火災の恐れや、オイル漏れがないことを確認したそうです。

海上自衛隊が米艦防護を初実施

安保法に基づき、平時に米国の艦船を守る「武器防護」を命じられたハリコブター搭載艦「いずも」が5月1日、横須賀港を出て、米海軍の補給艦と交流し、任務を開始した。昨年3月に施行された安保法では、昨年11月に南スーダンPKOに参加する陸上自衛隊に「駆け付け警護」が付されたが、実施はされてい

い。実施は今回が初めて。

米軍シリアを単独攻撃

4月7日、米軍はシリアが毒ガスなどの化学兵器を使ったという理由で、一方的にシリアのシャイフト空軍基地に50発以上の巡航ミサイル攻撃を加えました。しかし、国連は軍事攻撃を受けた場合以外は、安保理事会の決議なしには、軍事行動を起こすことを禁じています。この米軍の攻撃は明白な国連違反です。

南スーダンPKO 5月末までに撤収

稲田防衛大臣は、南スーダン国連平和維持活動(PKO)に派遣している陸上自衛隊に5月末までの撤収を命じた。部隊の活動は5年あまりで終了する。自衛隊部隊が参加するPKOはなくなる。政府は「シユバ市内は安定している」と言ってきたが、軍事力で均衡が保たれている準戦時状態。この3月には自衛隊員5人が政府軍に拘束された。また昨年7月には大規模な戦闘も起きた。南スーダンに安全な所はなくなり、自衛隊の活動は、国連の施設内にとどまることが増え、本来施設隊のやるべき市中的の業務が困難になっていた。